

超皮質性運動失語について

柳川リハビリテーション学院 第3学年 山口 信

(1)超皮質性運動失語 transcortical motor aphasia: TCMA の名称について

Lichtheim(1885)が命名。

他に力動性失語 dynamic aphasia(Luria,1966)や前頭葉性言語野孤立症候群 anterior isolation syndrome(Benson,Geschwind,1971)の別名がある。

(2)TCMA の定義

:概念中枢と運動言語中枢の連絡が切断されたために起こる失語 (Werick,&Lichtheim,1884 の失語図式による)。

(3)TCMA の基本的症状

(竹内愛子・河内十郎『脳卒中後のコミュニケーション障害』協同医書出版 1995 年)

自発話:自発話の量が著明に減少。

発話開始の困難と努力性が認められる(prosody の障害)。

話し始めると次の区切りまでの構音は滑らか。

理解:比較的良好(日常会話レベルでは問題なし)。

呼称:比較的良好(自発話よりはかなり良い印象)。

初頭音のヒント効果大きい。

系列語は開始するとスムーズ。

復唱:良好(文の長さは患者によってまちまち)。

自発話より乖離して非常に良い。

書字:著しい障害。

文字を書き出せないことがある。

(4)TCMA の分類

i)山鳥重『神経心理学入門』医学書院,1985 年

基底に全般的な発動性の低下があるタイプ

:Goldstein,1948 の1型,2型に相当。根本障害は言語の道具性とは関係なく、もっと一般的な能力としての発動性の減少にある。

発動性は保たれているが、発語を開始するメカニズムに障害があるタイプ

:Rubens,1976 が報告した病型。後述。

文法の障害が目立つタイプ。

:障害は高次の言語過程そのものにある。Luria は彼の力動性失語の特徴を「語と語を単一のシンタックスに結合できないのであり、ある語の文法的形態を把握して、他の語と結び付ける能力が障害されている」と要約し、その本質を new complex dynamic speech connection の障害」とあると主張している。榎戸ら(1981)は Luria と類似の症状群についてその基本的欠陥が「高次のレベルでの文の文脈的構造化の障害」とあると主張している。さらに山鳥(1975)は水水準での統辞構造に障害があり、より Broca 失語との近縁性の高い症例を経験している。

)Goldstein,1948 の分類

1 型:発語運動行為の多少の障害を示すのみで、それ以外の言語症状を全く欠く。書字障害もない。言語症状に選択的に現れた無動症 akinesia。ブロー力失語の回復期にみられる。

2 型:発語運動行為の障害に加えて、発語衝動そのものが障害される。前頭葉損傷でみられる。

(5)TCMA の責任病巣(Benson,D frank 1979 Aphasia,alexia and agraphia)

:優位半球の前頭葉ブロー力領野の前部あるいは上部のいずれかの病変。この病変は第3前頭回および第2前頭回、またときには第1前頭回の中部あるいは前部の領域に起こるのが最も普通である。さらに、前大脳動脈の梗塞の結果として TCMA が生じる例が時に報告されている。しかし、この場合、病変が見られるのは優位半球前頭葉のブロー力領野以外の部分である。

(6)前大脳動脈閉塞による失語(Benson,D frank 1979 Aphasia,alexia and agraphia)

Critchley(1930)は、前大脳動脈閉塞例の解剖学および臨床的側面を検討し、そうした例にときどき失語がみられることに注目した。当時の研究では言語障害のタイプはまだ定義づけられていなかった。Rubens(1976)は・優位半球(左)の前大脳動脈の急性閉塞により失語症候群を示した例について記述している。その話し言葉および言語特性は次のとおりである。緘黙状態(mutism)がそれぞれ2日と10日ずつ続き、その後、構音開始のほぼ完全な不能という一過性の失語症状がみられたが、それとは対照的に、復唱能力はほとんど損なわれず、音韻性錯語もみられず、理解力と呼称能力はまったく正常で反響語も強制的な完成化現象もみられなかった。音読能力はほぼ正常のレベルであるにもかかわらず、読解力は物品と絵のマッチングに限られていれどちらの患者も関係を表す統語構造の理解面に明らかかな問題を示した。これら2症例の失語症候群は、超皮質性運動失語症候群にきわめて類似していると緒論づけられた。Demasio,Kassel(1978)・Alexander,Schmitt(1979)も、さらに他の症例を追加することによって Rubens の所見を確認している。

前大脳動脈の閉塞に伴う神経学的関連所見は注目に値する。右下肢に重度の筋力低下や反射亢進、足指の伸展徴候、感覚喪失などが認められ・右肩の軽度の筋力低下を伴うが、腕や手、顔面の筋力は優れており、他の神経学的障害は認められない。これらの症状は前大脳動脈周辺部の梗塞の古典的な神経学的所見であり(Fisher,1975)、この機能局在は・アイソトープの脳スキャンまたはCTスキャンのいずれかによって、すべての症例で確認された。Rubens の患者の言語は数カ月にとりかたりの改善を示した。左側の前大脳動脈の閉塞によって生じる失語はまれにしかみられないが、超皮質性運動失語とよばれる症候群によく似た、またはそれと同一の症候群を生じるようである。

(7)TCMA に合併しやすい神経症状(Benson,D frank 1979 Aphasia,alexia and agraphia)

ほとんどの患者に右片麻痺がみられるが、これは必須所見ではない。

失行が極めて頻繁にみられ、言語で指示された行為を行うのに左側の手足を正しく使うこともできない。

感覚喪失と視野障害はいずれも特徴的ではないが、損傷の広がりと部位によってはまれにみられることもある。

初期段階では共役偏倚と一側性無視症候群が、すべてではないが何人かの患者に認められている。

(8)TCMA の予後

楽観派:Rubens,1976;Kertesz,Mccabe,1977...治療の有無に関わらず TCMA の患者の一部ではかなりの回復がみられる。

悲観派:Benson, Frank,1979...回復に限界があり、治療は困難。

(9)文献

MEDLINE からの引用のため詳細はここでは省略。ほとんど日本語で読めるもの。

TCMA の反響言語

TI: Effortful echolalia

AU: Hadano-K; Nakamura-H; Hamanaka

SO: Cortex. 1998 Feb;34(1):67-82

TCMA の障害機序：補足運動野と前運動野の機能の相違

TI: Functional difference between the left supplementary motor area and the left premotor area in a task of confrontation naming and word fluency

AU: Otuki-M; Soma-Y; Aoki-K; Iizuka-O et al

SO:No-To-Shinkei.1998 Mar;50(3):243-8

TCMA の病巣

TI: Cerebrovascular disorder and the language area

AU: Soma-Y

SO: Rinsho-Shinkeigaku.1997 Dec;37(12):1117-9

TCMA の意味障害

TI: Adynamic aphasia: a transcortical motor aphasia with defective semantic strategy formation.

AU: Gold-M; Nadeau-SE et.al

SO: Brain-Lang. 1997 May; 57(3): 374-93

TCMA の反響的応答

TI: "Echoing approval" : a new speech disorder.

AU: Ghika-J; Bogousslavsky et.al

SO: J-Neuron. 1996 Sep; 243(9): 633-7

TCMA の聴理解

TI: Auditory comprehension in transcortical motor aphasia due to a medial lesions of left frontal lob.

AU: Otsuki-M; Soma-Y et al

SO: No-To-Shinkei. 1995 Nov; 47(11):1081-5

TCMA の剖検

TI: An autopsy case of transcortical motor aphasia

AU: Enokida-H; Kurachi-M et al

SO: No-To-Shinkei. 1983 Nov; 35(11): 1131-40

TCMA の語性錯語

TI: Semantic paraphasias, sometimes

AU: Assal-G; Delaloye-A

SO: Schweiz-Arch-Neurol-Neurochir-Psychiatr. 1983; 132(1): 5-11

TCMA の下位分類

TI: On a subtype of so called transcortical motor aphasia –three cases with circumscribed lesions including the posterior parts of the left middle frontal gyrus (author's transl)

AU: Enokida-H; Torii-H et al.

SO: Seishin-Shinkeigaku-Zasshi. 1981; 83(5): 305-30

前大脳動脈梗塞での失語

TI: The aphasia syndrome of stroke in the left anterior cerebral artery territory

AU: Alexander-MP; Schmitt-MA

SO: Arch-Neurol. 1980 Feb; 37(2): 97-100